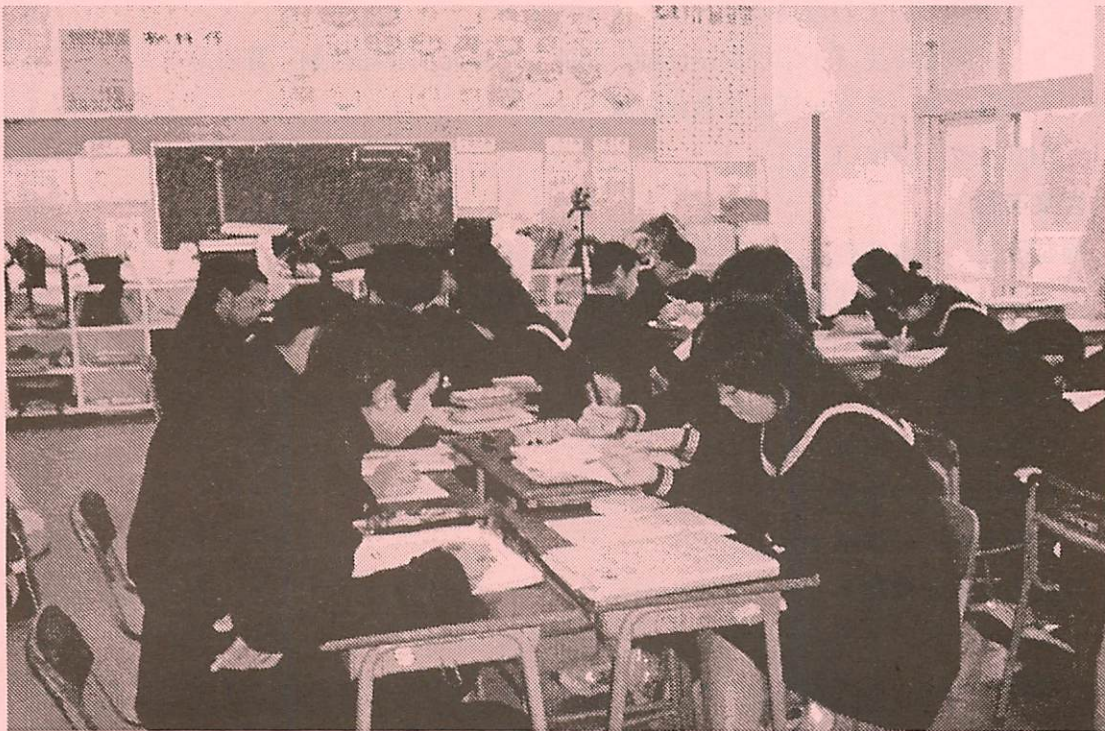


〔中学校 英語〕

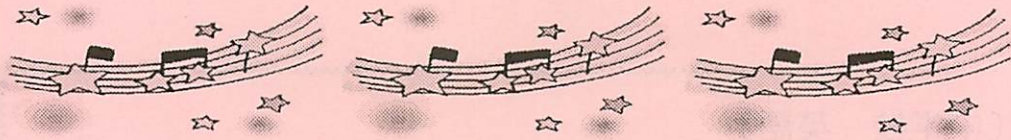
授業で学んだ英語を実践的に 使える指導法の工夫

— 小学校における英語活動の実態を踏まえて —



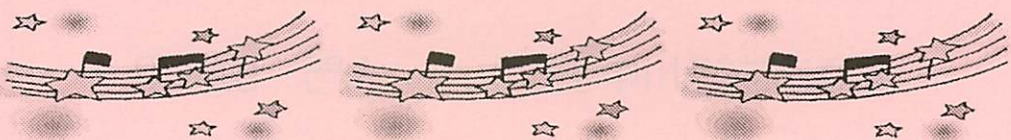
浦添市立港川中学校

大門 由加里



目 次

I	テーマ設定理由	1
II	目指す生徒像	1
III	研究の目標	1
IV	研究の仮説	2
1	基本仮説	2
2	作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3
1	テーマについての理論研究	3
	(表1 中学2年生『小学校英語活動と関連した単元別言語活動一覧表』)	4
2	コミュニケーション活動の教材作成	3～7
3	ALTとの授業の工夫	7～8
VII	授業実践	8
	検証授業 実践事例1	8～15
	(表2 小学校英語活動におけるクリスマスへの取り組み)	11
	検証授業 実践事例2	15～17
VIII	研究の考察	17
1	作業仮説1の検証	17～18
2	作業仮説2の検証	18～19
3	作業仮説3の検証	19～20
IX	研究の成果と課題	20
1	成果	20
2	課題	20
	おわりに	21
	主な参考・引用文献	21



授業で学んだ英語を実践的に使える指導法の工夫

— 小学校における英語活動の実態を踏まえて —

浦添市立港川中学校 大門 由加里

【要 約】

本研究は、小学校での英語活動を参考に、授業で学んだ表現を実践的に使えるよう、指導法の工夫を試みたものである。英語を使おうとする手だてとして、教材の開発や、コミュニケーション活動の工夫、ALTとの授業などを取り入れた。

キーワード

□小学校での英語活動

□コミュニケーション活動

□ALTとの授業

I テーマ設定理由

平成10年の中学校学習指導要領の改訂によって、「聞くことや話すことなどの実践的コミュニケーション能力の基礎を養う」ことが外国語科の目標として設定され、音声によるコミュニケーション能力が重視されることとなった。

浦添市では、「国際社会の中で信頼され、活躍する国際性豊かな人材を育成する」という小学校英語科の目標のもと、平成16年に英語教育特区となり、市内の全小学校には「英語科」が設置され、英語が教科として導入された。

現在の中学2年生は、小学校6年生の時から英語が教科として取り入れられたことになる。そういう生徒を受け持って感じることは、学校間の多少の差はあるが、中学1年の最初の時期から英語で挨拶したり、曜日や日付を答えることができたり、これまでの生徒よりもクラスルームイングリッシュに対する反応は良いように思う。

平成18年10月に本校2年生に実施したアンケートでは、ほとんどの生徒が「英語の勉強は楽しい」と答え、その理由に歌やゲームを挙げている。小学校での「聞く、話す」活動中心の授業の成果が出ているようである。

さらに、今年は2年生の英語の授業を少人数での指導を取り入れることとなり、今まで以上に生徒と英語で触れ合うチャンスを多く持つことができるようになったことなどから、93%の生徒が「もっと英語を話せるようになりたい」と英語学習への意欲を示している。

その一方で、「外国の人がいたらどうしますか」という質問には、「英語で話してみたい」と答えた生徒は69%、26%の生徒が「話したくない」と答えている。授業で学習した英語を、大半の生徒は使ってはみたいと思うが、4分の1は自信のなさを表している。

このアンケートを通して、これまでの私の授業実践の中で、生徒に積極的に英語を使わせるような授業形態になっていたか、生徒が間違いを恐れず、自分の考えを堂々と言えるような授業の雰囲気作りができていたか、反省する点があった。

そこで、本研究では小学校で培われた英語活動や、コミュニケーションへの積極的な態度を保持させつつ、小学校で体験した表現を盛り込んだ学習活動を取り入れることによって、新出の文型や文法だけではなく、既習事項の定着にも効果的で、生徒が理解を深めながら積極的に英語を使っていくようになるだろうと考え、本テーマを設定した。

II 目指す生徒像

学習した英語をコミュニケーションの手段として使い、外国の人とも英語で積極的に関わろうとする生徒。

III 研究の目標

質問されたことに反応したり、分からなかったらpardonやMay I ~ ?などを使って聞き返したりするなど、英語をコミュニケーションの手段として使おうとする生徒を育成する授業展開の工夫をする。

IV 研究の仮説

1 基本仮説

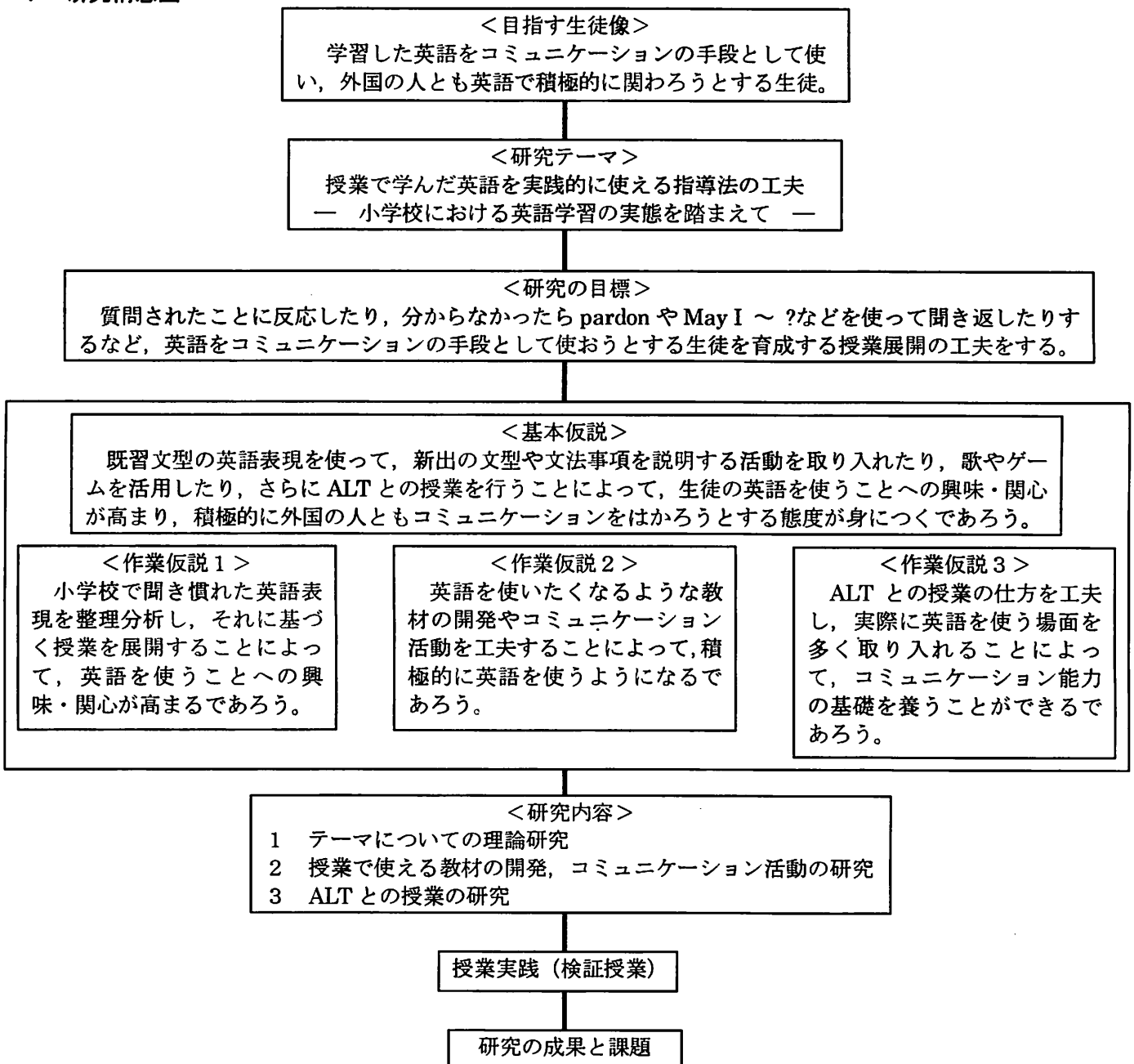
既習文型の英語表現を使って、新出の文型や文法事項を説明する活動を取り入れたり、歌やゲームを活用したり、さらにALTとの授業を行うことによって、生徒の英語を使うことへの興味・関心が高まり、積極的に外国の人ともコミュニケーションをはかろうとする態度が身につくであろう。

(ALT : Assistant Language Teacher 外国語指導助手)

2 作業仮説

- (1) 小学校で聞き慣れた英語表現を整理分析し、それに基づく授業を展開することによって、英語を使うことへの興味・関心が高まるであろう。
- (2) 英語を使いたくなるような教材の開発やコミュニケーション活動を工夫することによって、積極的に英語を使うようになるであろう。
- (3) ALTとの授業の仕方を工夫し、実際に英語を使う場面を多く取り入れることによって、コミュニケーション能力の基礎を養うことができるであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 テーマについての理論研究

- (1) 「小中学校を通じた系統的・発展的な英語科カリキュラムの作成」（浦添市立教育研究所「研究集録第33号」）を参考にしながら、平成19年度に使われる教科書をもとに、中学2年生用の単元別言語活動表を作成した。（表1参照）

その過程を通して、小学校6年間の英語活動で、中学2年の間に学習する文法事項や、それに関連する表現の4分の1余りを、生徒はすでに耳にし、口にしていたことが分かった。

中学校では、このことを踏まえて教材研究をし、授業の展開の仕方を工夫する必要がある。そうでないと旧態依然の指導では、せっかく培われた興味・関心を失わせてしまいかねない。

また、小学校では英語をたっぷり聞かせることに重点を置いて英語活動が進められているが、6年間英語を聞いたり話したりするだけでは飽きてしまうであろう。実際、港川中1年生のアンケート結果を見ると、「小学校でもっと学習したかった内容は何か」という問いに、男子で42%、女子で50%の生徒が「書くこと」と答えている。アルファベットや簡単な単語の導入は、今後小学校でも検討すべきであろう。（浦添市では低学年からアルファベットの指導を取り入れている学校もある。）

- (2) 小学校の英語の授業を参観して

浦添市の小学校に出かけ、たくさんの英語の授業を参観させていただいた。ほとんどの学級担任の先生方は、自分の専門ではない英語に対して、多くの不安を抱えてのスタートであったと思われるが、そんなことを全く感じさせない授業がほとんどだった。

それどころか、アイディアあふれる授業内容や、子どもたちを集中させる授業展開など、こちらが見習うべき点が多々あった。以下、参考になった点を挙げる。

① Greeting

小学校ではEnglish roomでの授業がほとんどで、そこへの入室においても、入室

ticketの利用、BGM、AETと児童一人一人との英語でのやりとりがなされ、日直の号令で授業がスタートする。高学年では、日直が他の児童に自分たちで考えた質問をする学級もあり、レベルの高さが感じられた。

② Warm-up / Review

学年や指導内容に合わせた歌を歌う、CDに合わせて絵本を読み聞かせるなど、児童の気持ちを和らげながら、英語学習への雰囲気作りがなされていた。

③ Activities

学級担任とAETのデモンストレーションで、その時間のトピックを導入する。AETのクリアな発音をたっぷり聞かせ、チャンツなども利用しながら発音練習する。

学級担任は、子どもたちの様子をしっかりと把握し、聞き取りが十分かどうかを判断し、次の活動へと進む。学級の実態を知っている担任だからできることであろう。

④ Conclusion

その時間のまとめをする、学習をふり返り、感想を書いたり、発表したり、数名の児童がデモンストレーションしているところもあった。ここで担任やAETはしっかりと児童をほめ、自信をつけさせ、次へのやる気へとつなげている。

2 コミュニケーション活動の教材作成

- (1) 新里眞男氏は「週刊教育資料No. 960」の中で次のように述べている。

「コミュニケーションとはメッセージのやりとりです。メッセージをつくり、それをほかの人に伝えようとする。そのメッセージを受け取って、それに反応する。つまり、人と人とのやりとりです。」

英語はコミュニケーションの手段である。テストで高い点数が取れたからといって、使えることにはならない。たくさん聞き、話し、書き、読む中で身に付き、実際に使うことで定着していくものである。

表1 中学2年生『小学校英語活動と関連した単元別言語活動一覧表』 <教材 TOTAL ENGLISH 学校図書館>

月	単元	題材名	時間	主な言語事項	活動内容	小学校・中学1年の言語事項		
4	1	オリエンテーション Spring Vacation	1 4~5	I took I was / We were Were you ...?	挨拶, 授業の進め方, 評価の仕方等 一般動詞, be 動詞を用いての対話	classroom English を使った挨拶など <L. 9> I played / Did you...? / I didn't <L. 4> I'm / You're Are you ...? / I'm not	小全学年, 中1 中1 中1 中1	
5	2	Different Meanings 日記を書こう Check It Out 1	4~5 1 1	<i>I was watching</i> When Aki called me, I think (that) 動詞の過去形 pp. 4-17 のまとめ	過去進行形を用いての対話 接続詞を含む文の理解 " 付加疑問文での Yes/No の答え方を理解する 文章の流れを考え, 日記を書く pp. 4-17 の確認	(遊びとスポーツ) What are you doing? / I'm cooking. <L. 8> I'm watching / Are you studying ...? <L. 9> I played / Did you...? / I didn't	小5, 6 中1 中1	
6	3	Flight to the U.K.	4~5	I will call you Will you go ...? I'm going to Are you going to ...? <i>How's the weather ...?</i>	未来のことを will や 'be going to ... を使って 表現する 天気予報の見聞きと表現活動 夏休みの予定を発表する pp. 19-28 の確認 英語の歌に親しむ	(天気予報に関する表現) How's the weather? / It's <私の1週間, ○○さんを紹介しよう, 日本の行事を紹介しよう>	小3, 4 中1	
7		Action! 天気予報 夏休みの予定 Check It Out 2 英語の歌 1	1 1 1 1	Show & Tell pp. 19-28 のまとめ Yesterday Once More			小全学年, 中1	
9		4	Shun in London	4~5	<i>Will you ...? / Shall I ...?</i> <i>May I ...?</i> I have to / must Do you have to ...? <i>道の尋ね方, 教え方</i>	依頼する, 申し出る 買い物をする 自分が行きたい場所までの道順を尋ねる どこに何がある, いるを尋ねたり答えたりする pp. 31-41 の確認 英語の歌に親しむ	(買い物ごっこ) May I help you? / I want ..., please. (食べ物と食事) May I take your order? / What size? <ファースト・フード店で> For here or to go? / Here you are. (私の町) Excuse me. Where is ...? / Go / Turn	小3, 4 小5, 6 中1
10			道案内 Action! どこにある? Check It Out 3 英語の歌 2	1 2~3 1 1	There is / are pp. 31-41 のまとめ I Just Called to Say I Love You			小3, 4 小全学年, 中1
10	5	The 3Rs	4~5	I like cooking. <i>I want to know</i> I went to ... to see have anything to do? <i>町のパンフレットを作ってみよう</i>	動名詞の理解 不定詞を用いた簡単な会話 (名詞的用法, 副詞的用法, 形容詞的用法) 自分の町の紹介文を作成する 日本の昔話を英語で読み, 理解する	(家族と身近な人) What do you want to be? / I want to be a (食べ物と食事) I want to eat (世界の国々) Where do you want to go? / I want to go to (私の町) Let's introduce our town. This is 絵本の読み聞かせ	小5, 6 小5, 6 小5, 6 小5, 6 小全学年	
11	3	観光パンフレットを作ろう Red Demon and Blue Demon	1 3	Reading				
12	6	What's Universal Design? Check It Out 4 将来の夢 英語の歌 3	4~5 1 1 1	Jim gave me a book. Why ...? / Because.... You look / That sounds.... pp. 45-63 のまとめ <i>将来の夢について会話をしてみよう</i> Imagine	pp. 45-63 の確認 自分の夢について話す 英語の歌に親しむ	(家族と身近な人, まとめ) My dream is to be a	小5, 6 小全学年, 中1	
1	7	World Heritage 電話でおしゃべり	4~5 1	... older than the highest more ... than / ... the most May I speak to ...?	比較表現を用いた活動 電話での会話	<L. 8> Hello. This is Can I speak to ...? / Speaking.	中1	
2	8	Manga, Anime and Movies	4~5	... as ... as better than / (the) best If we ...,	比較表現を復習し確認する 自分の興味のあるものを相手に伝える 身体症状を尋ねたり説明したりする	私の1週間, ○○さんを紹介しよう, 日本の行事を紹介しよう (あいさつ) I'm happy / hungry / cold / sick <私の1日> I'm sleepy / fine / thirsty	中1 小3, 4 中1	
3		Show & Tell に挑戦 体調は?	1 1	Show & Tell <i>What's wrong? / I have</i>				
		Check It Out 5 Mother Teresa	1 4~5	pp. 66-85 のまとめ Reading	pp. 66-85 の確認 内容理解	<Seasons and Their Friends / Sea Turtles>	中1	

小学校の英語活動で、実践的なコミュニケーションの仕方をゲーム形式で楽しんできた生徒の、やる気を継続させられる活動を考えたい。

(2) 具体的なコミュニケーション活動

① 歌

「決定版！授業で使える英語の歌20」（井上謙一他著）によると、

ア 英語に対して親しみが生まれ、英語学習への意欲が高まる。

イ 大きな声で歌うことで、心が解放されクラスの雰囲気よくなる。

ウ 歌は読み取りの自主教材となる。

エ 習っている事項の復習や、これから習う単語の予習になる。

オ 教科書には出てこない生の英語表現に触れることができる。

カ 音読練習に格好の教材となり、大きな声を出す習慣がつく。

キ 歌の中で、それぞれの国の文化が教えられる。

ク 歌詞を参考にして自己表現（作詞）につなげることができる。

などが、授業で英語の歌を使うメリットとして挙げられている。私も1ヶ月に1曲のペースで英語の歌を授業に取り入れているが、歌の時間が楽しみだ、あるいは次の曲は何だろうと気にする生徒もいた。中には、「この曲を歌えるようになりたい」と、自分でCDを持ってくる生徒もいた。

② クイズ、パズル、ゲーム

従来から英語授業に取り入れられてきたクイズ、パズル、ゲームなどは、単に授業の息抜きや、気分転換のためのおまけの活動として使用するのではなく、より積極的に、新しい言語材料の導入や定着のための学習活動、情報交換や運用練習としての言語活動など、授業の中核部分に導入したいものである。

③ Questions & Answers

平成18年度港川中英語科のテーマを「実践的な英会話力を身につけるための活動の充

実」として取り組み、そのための一環として、授業の最初に生徒全員を起立させ、教師の質問に答えて座るシステムを取り入れた。最初は緊張感を持って取り組んでいた生徒も、着席した後のおしゃべりが目立ち始め、悩んでいたところ、浦添中の谷内牧子先生の授業を見せていただき、質問に答えられた生徒が次の質問をし、最後に残った生徒は教師に質問するという方法を教えていただいた。

④ Show & Tell

Show & Tellとは、スピーチの1つであるが、物を見せながら語るもので、具体的なイメージを聞き手に与える。だから、より聞きたくなるのである。

英語圏の国々では、小学校の時に徹底的に取り組む活動のようである。

また、私たちが使う教科書でも、最近では1年生の段階からShow & Tellを扱っているものもある。

⑤ 自己紹介などのスピーチ

「英語好きにする授業マネジメント30の技」（中嶋洋一著）から、スピーチの大切さについて引用する。

「どの学年の教科書も、最初の単元は重要な意味をもち、そこで自己紹介を多く取り上げているのは、それがコミュニケーションの第一歩だからである。

自己紹介にはいろいろな方法があるが、いずれにしても、やりっぱなしではいけない。スピーチを全員が評価するという実践を取り入れ、さらにポイントを書き取らせ、それに対する自分の考えを書く時間を与え、発表させる。

これで、聞かなければならないという必要感が生まれてくる。要は「関わり」と「喜びや学びを共有する場面」を作り出すということである。」

また、「他己紹介」という言葉を私は今回初めて知ったが、これはShow & Tellとして応用することもできる。

⑥ その他

「学習集団をエンパワーする30の技」(中嶋洋一著)より, 上記以外の活動を紹介する。

ア 聞く力をつける

(ア) シャドーイング

「影踏み」で鬼が陰をどんどん追いかけるように, 音を追いかける。

(イ) 次を予想する

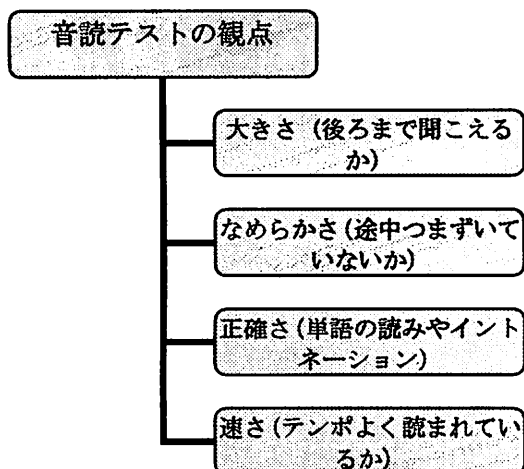
文脈をとらえて, 次を予想しながら聞く。

イ 読む力をつける

(ア) 指し読み

鉛筆を, 英文の下をなぞるようにして, 先へ動かしながら読む。

(イ) 音読テスト



(ウ) reading theater

ジェスチャーをつけながら, 相手に向かってしゃべるようにすることで, 情感がこもるようになる。ジェスチャーも自然に出てくる。

ウ 話す力をつける

(ア) small talk

この活動は, できるだけ多くの情報を伝えることをルールとしている。これを数多く経験させると, 受け身でYes, Noだけを答えるのではなく, 自分から積極的に情報を求めようとするようになる。

(イ) 1文を付け足す

1文を付け足すと, 新しい情報が内容を発展させやすくなる。

(ウ) mapping (バルーン)

地図を描くように, 話題をどんどん広げていく。

エ 書く力をつける

(ア) チェーン・レター

自分で好きなトピックを選び, それに対して自由に意見を書く。一定の時間がたったら, 次の生徒が自分の意見を書き込んでいく。

(イ) リレー・ノート

チェーン・レターのノート版。1冊のノートを3等分して使う。

3 ALTとの授業の工夫

(1) ALTとのteam-teaching

「中学校英語科のティーム・ティーチング」(景浦攻著)を参考にまとめてみる。

「ティーム・ティーチングとは, 生徒一人一人の個を生かしながら授業の目標をより深くより効率的に達成するために, 複数の教師がそれぞれの特徴を生かして互いに協力しながら一つのクラスを指導する授業形態である。」

① ALTとJTEのteam-teachingの特徴

ア 二人の教師の会話モデルで, コミュニケーションとしての英語の生きた姿を生徒に提示し, 印象付けることができる。

イ 生徒の英語への興味・関心を高めることができる。

ウ 音声重視の英語教育が展開できる。

エ informant (情報提供者) としてのALTが理解・表現に関する様々な情報を瞬時に提供してくれる。

オ 異文化面の情報を直接提供してくれる。

カ 学習した表現等を実際に試してみても, 通じた喜びを直接体験させられる。

キ ALTと生徒との日常的, 直接的な触れ合いにより, 外国人に対する恐怖心, 違和感, 緊張などを減少させることができる。

ク ALTの存在で, 英語を話したり, 書いたりの言語活動の目的がリアルになる。

② 授業の形態の工夫

ア 一斉授業は、生徒全員に対して、教師が説明を行ったり、モデル対話を紹介したり、教師による発問に生徒が答えたり、生徒が前で学習の成果を発表したりするような場合によく行われる。

イ グループ授業は、1クラスに二人の教師が配置され、1時間の授業を最初から2グループに分けて行う場合や、2クラスを統合して、3学級に再分類し、それぞれの学級に一人ずつの教師が配置される場合などがある。いずれにせよ、複数の教師を配置し、少人数化を図ることにより従来のグループ授業とは比較にならぬほど指導や援助が徹底することになる。

ウ 一斉とグループ授業の混合は、チーム・ティーチングにおいて最もよく見られる。一斉授業で二人の教師が協力して新教材を導入したり、モデル対話を提示したりして理解を促した後、課題に基づいてグループごとに言語活動に取り組む。そうすることで、実際に言語を使用する機会が生徒全員に保証され、表現活動を通して理解が

一層深まったり、グループで協力し合うことにより、助け合い学習が可能になったりして、全員参加の学習となる。

エ 一斉と個人授業は、一斉授業の中で、生徒一人一人に課題を解決させる場面を設定し、複数の教師が、机間指導をして質問を受けたり、評価を行って学習の方向に対する適切な指導援助をしたりするときに採用される形態である。英語の学習は学習面で個人差が顕著に現れ、教師の個別指導が非常に重要になってくるので、より多くの指導・援助が個別に与えられるようにしたい。特に内容読解、作文、など生徒達が一人で学習する場面で有効である。

③ その他

授業のねらい、使用する教材、時期なども併せて考えていくことで、さらにチーム・ティーチングの効果が期待できる。

(2) ALTを中心とした授業

ALTとの授業では、まだまだteam-teachingが主であるようだが、事前の打ち合わせをしっかりとさえすれば、ALTが中心となった授業展開ができるであろう。

VII 授業実践

検証授業(1)

英 語 科 学 習 指 導 案

平成18年12月22日(金) 2校時

2年6組 発展クラス

(男子10名、女子10名、計20名)

1 単元名 NEW HORIZON English Course 2 Unit 6 The Story of Silent Night

2 単元目標

- (1) There is [are]...構文(肯定文、疑問文と応答)の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- (2) 動名詞を目的語、主語とする文の形・意味・用法を理解し、表現できる。
- (3) ノンフィクション(物語)を読んで、登場人物の心情などを読み取る。

3 単元について

- (1) 生徒観

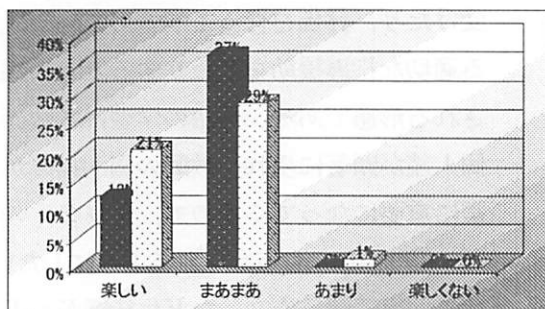
4月から2年生の各クラスを習熟度別に編成し、少人数での授業を行っているが、10月に実施したアンケートでは、以下のような結果になった。

英語学習に関するアンケート集計結果

(対象：2年1, 2, 6, 7組発展クラスの生徒73名)

(黒が男子、白が女子)

1 英語の勉強は楽しいですか。



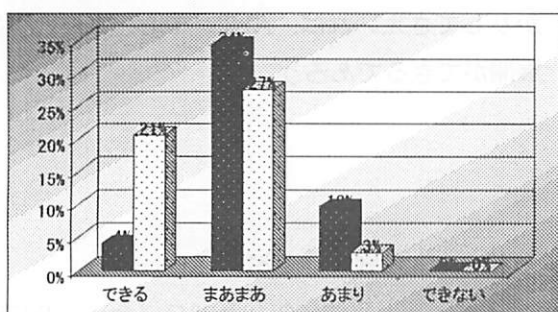
2 楽しい理由は何ですか。(複数回答)

- ① 歌やゲームがあるから 男子15名, 女子26名
- ② 英語で話ができるから 男子2名, 女子9名
- ③ 英語を勉強できるから 男子5名, 女子5名
- ④ その他 (発表でポイントがたまる, 少人数)

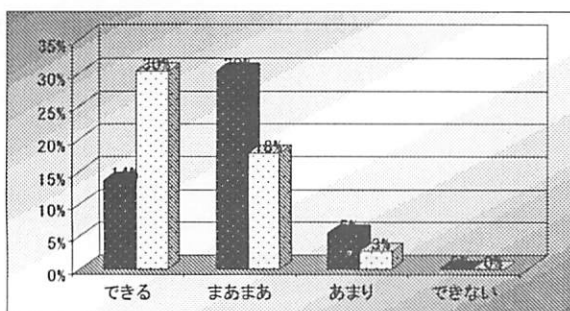
3 楽しくない理由は何ですか。

- ① 英語が嫌いだから 女子1名

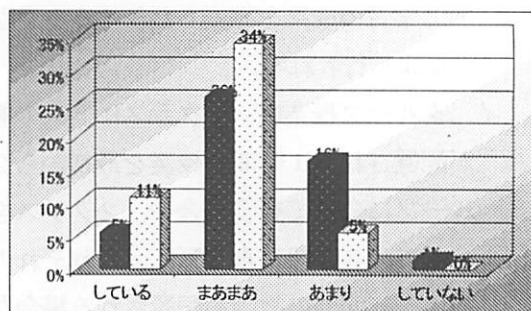
4 歌やゲームに積極的に取り組んでいますか。



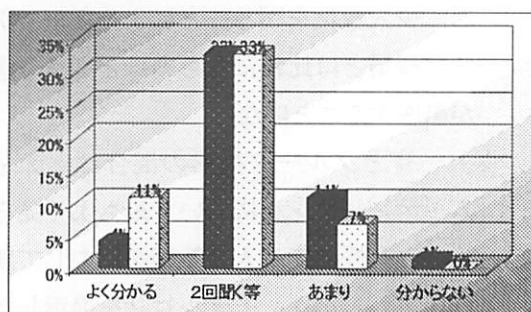
5 ゲームで友達と楽しむことができますか。



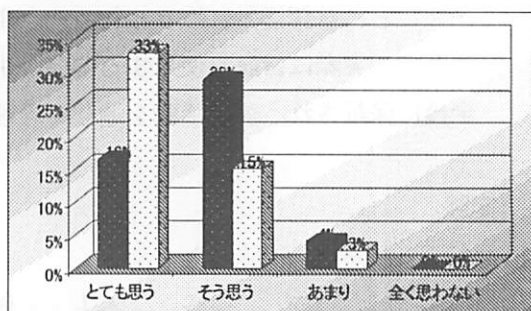
6 大きな声で英語をリピートしていますか。



7 教師やCDの英語が分かりますか。



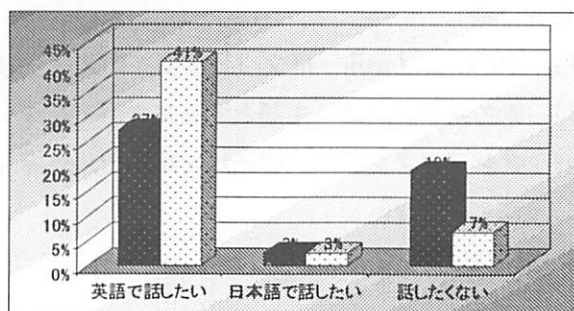
8 もっと英語を話せるようになりたいですか。



9 英語の勉強方法(複数回答)

- ① 予習・復習を欠かさない 男子22名, 女子24名
- ② テレビやラジオで聞く 男子8名, 女子13名
- ③ ビデオやDVDを見る 男子2名, 女子4名
- ④ その他 (英語の歌を聞く, 単語を覚える)

10 外国の人がいたらどうしますか。



アンケートの結果を見ると、設問4、6の解答で「まあまあできる（している）」が、「できる（している）」を上回っているのが気になる。また、設問7では「教師やCDの英語を2回聞く、あるいはジェスチャーなどで理解できる」と解答した生徒が66%と、大部分を占めている。さらに設問10「外国の人がいたらどうしますか」という問いに対して、「英語で話してみたい」と答えた生徒は69%、26%の生徒は「話したくない」と答えている。指導法に工夫を凝らし、数字的に低かった部分を高めていくことで、生徒の内面的な部分を盛り上げ、実践的に英語を使わせるようにしていきたい。

(2) 教材について

① 題材

「きよしこの夜」をめぐる話題を取り上げる。前半は、クリスマスイヴのブラウン家の様子の描写と、プレゼントにもらったクリスマスに関する本についての絵美とジュディの対話。後半は、「きよしこの夜」の誕生のエピソードである。

② 言語材料

- ・ There is [are] ... 構文（肯定文、疑問文と応答）
- ・ 動名詞を目的語、主語とする文

(3) 指導について

本単元では、欧米の代表的な年中行事としてクリスマス扱う。後半の「きよしこの夜」誕生秘話は、それ自体としても心温まる物語となっているので、音読や朗読などの活動を取り入れ、登場人物の心情などを読み取れるよう指導していきたい。また、クリスマスは小学校のどの学年でも取り扱っているので、生徒にとっても親しみやすい単元であろう。（表2参照）

4 指導計画

時	学習目標	学習内容[観点別評価]
1 検証授業 (1)	Starting Out ・There is[are]...構文（肯定文）の形・意味・用法を理解し、表現することができる。	①基本文[理解・表現] ②本文の内容理解[理解] ③本文の音読・ロールプレイ [表現]
2	Dialog ・There is[are]...構文（疑問文と応答）の形・意味・用法を理解し、それをを用いて簡単な対話ができる。	①基本文 [理解・表現] ②本文の内容理解 [理解] ③本文の音読・ロールプレイ [表現] ④Your Turn [表現・意欲]
3	Reading for Communication 1 ・ノンフィクションを読んで、登場人物の心情などを読み取ることができる。 ・動名詞を目的とする文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	①基本文 [理解・表現] ②本文の内容理解 [理解] ③本文の音読 [表現]
4	Reading for Communication 2 ・ノンフィクションを読んで、場面の変化や登場人物の心情などを読み取り、それが表れるように朗読することができる。 ・動名詞を主語とする文の形・意味・用法を理解し、表現できる。	①基本文 [理解・表現] ②本文の内容理解 [理解] 「きよしこの夜」由来の理解 [言語文化] ③本文の音読 [表現] ④Your Turn [表現・意欲]

表2 小学校英語活動におけるクリスマスへの取り組み

学年	言語事項	ねらい	活動 ▲ 制作 ★ ゲーム □ 文字				備考
			1時	2時	3時	発展・代替	
1年	What's this? / It's a candle / present / reindeer / snowman / Santa Claus / angel / Christmas tree.	クリスマスについて知っていることを積極的に話したり、聞いたりする。	○クリスマスについて知り、関係するものの名称を知る。 ▲色塗り(クリスマスに関するものの色塗りをする。)	○クリスマスに関係するものを作って楽しむ。 ▲帽子作り(円錐形の帽子を作り、前時の色塗りの絵を貼って飾り付けをする。)	○What's this?を使って楽しむ。 ★クリスマスバスケット(キーワードは帽子の飾り。全員帽子をかぶり What's this? / It's a candle.の掛け合いで進める。)	★ビンゴ(マスの中はクリスマスに関係するもの。一斉に What's this?とAETに聞き、その答えを聞いてマスをチェックする。)	♪We wish you a Merry Christmas A Happy New Year という新年のあいさつも併せて使わせたい。
2年	What's this? / It's a candle / present / reindeer / snowman / Santa Claus / angel / Christmas tree. Who are you? / I'm a snowman.	クリスマスについて知っていることを積極的に話したり、聞いたりする。	○クリスマスについて知り、関係するものの名称を知る。 ★指さしゲーム、タッチゲーム、ミッシングゲーム(単語を聞き取り、指さしたりタッチしたりする。また無くなったものを当てる。)	○Who are you? / I'm a ~.の表現を知る。 ★クリスマスバスケット(キーワードはクリスマスに関係する人物。Who are you? / I'm a snowman.の掛け合いで進める。)	○クリスマスの雰囲気を楽しむ。 ▲クリスマスのカード作り(AETの簡単な英語の指示を聞き、塗ったり切ったり貼ったりする。)	★AETからクリスマスの思い出を聞く。外国人であれば故郷の写真などを提示しながら話してもらう。	♪We wish you a Merry Christmas Merry Christmas & A Happy New Year という年末のあいさつも併せて教える。
3年	Do you want a doll? / Yes, I do. No, I don't. What do you want for Christmas? / I want a doll. computer game / camera / CD player / soccer ball	クリスマスにほしい物を英語で話し、コミュニケーションを楽しむ。	○何が欲しいか尋ねる表現、身の回りの遊び道具などの英語表現を知る。 ▲掛け合いビンゴ(マスの中はおもちゃ等。What do you want for Christmas?と全員で一人一人に尋ね、その答えのマスをチェックする。)	○何が欲しいか尋ねる表現、身の回りの遊び道具などの英語表現を知る。 ★何が欲しいバスケット(キーワードはおもちゃ等。What do you want for Christmas? / I want a doll.の掛け合いで進める。)	○何が欲しいか尋ねる表現、身の回りの遊び道具などの英語表現に慣れる。 ▲クリスマスカード作り(AETの指示を聞き、塗ったり切ったり貼ったりする。)	▲カード以外に作りたい物(紙を折って切り、教室に飾れるような物。紙皿を利用した飾りなど。)	2学期のお楽しみ会等と関連させた活動を仕組み、手作りのカードを交換し合う等のコミュニケーションを楽しむ事もできる。
4年	Do you want a doll? / Yes, I do. No, I don't. What do you want for Christmas? / I want a doll. computer game / camera / CD player / soccer ball	クリスマスにほしい物を英語で話し、コミュニケーションを楽しむ。	○何が欲しいか尋ねる表現、身の回りの遊び道具などの英語表現を知る。 ★何が欲しいバスケット(キーワードはおもちゃ等。What do you want for Christmas? / I want a doll.の掛け合いで進める。)	○何が欲しいか尋ねる表現、身の回りの遊び道具などの英語表現に慣れる。 ▲インタビュービンゴ(マスの中はおもちゃ等。中央に自分が欲しい物を入れる。ジャンケンに勝った人が What do you want for Christmas?と聞く。)	○何が欲しいか尋ねる表現、身の回りの遊び道具などの英語表現に慣れる。 ▲雪の結晶作り	▲クリスマスに関係する物作り(モールやプラスチック版等を使って)	2学期のお楽しみ会等と関連させた活動を仕組み、手作りのカードを交換し合う等のコミュニケーションを楽しむ事もできる。
5年	Let's make a Christmas card. Let's fold ~ / draw ~ / cut ~. This is for you. / Thank you. / Oh, what's this? Open it.	クリスマスカードを作ったり、カードを交換したりしてコミュニケーションを図る。	○贈り物を渡したり受け取ったりする時の表現を知る。 ★プレゼントリレー(2グループに分かれ円になりプレゼントの箱を This is for you. Thank you.と言いながら手渡していく。それぞれタイムを計りタイムを競い合う。)	○贈り物を渡したり受け取ったりする時の表現を知る。 ★プレゼントリレー(2グループに分かれ円になりプレゼントの箱を This is for you. Thank you.と言いながら手渡していく。それぞれタイムを計りタイムを競い合う。)	○英語の指示に従いクリスマスカードを作る。 ▲クリスマスカード作り(AETの言葉を読みカードを作る。)	▲クリスマスにちなんだ工作(紙を折って切った飾り等、AETの指示を聞き取り制作する) □クリスマスカードに文字を書き入れる。	カードに模様として文字を書かせるなど、児童の実態に応じて文字に触れさせる活動を仕組むこともできる。
6年	Let's make a Christmas card. Let's fold ~ / draw ~ / cut ~. This is for you. / Thank you. / Oh, what's this? Open it.	クリスマスカードを作ったり、カードを交換したりしてコミュニケーションを図る。	○贈り物を渡したり受け取ったりする時の表現を知る。 ★爆弾ゲーム(音楽に合わせて This is for you. / Thank you. Oh, what's this? Open it.と言いながらプレゼントを手渡す。)	○英語の指示に従いプレゼントボックスを作る。 ▲ボックス作り(習った英語表現に従い工作する。)	○プレゼントボックスを使ってコミュニケーションを楽しむ。 ★プレゼント交換(箱に身の回りの物を入れ、This is for you. Thank you.と言いながらどんどんプレゼントを交換し合う。教師の合図で交換を止め、一斉に Oh, what's this?と言いながら開ける。開けた時誰の箱か分かるようにする。中に意外性のあるものを入れさせるなど工夫する。	▲□クリスマスカードを作り、飾りにしたり英語表現を書き加える。	箱の周りに模様として文字を書かせるなど、児童の実態に応じて文字に触れさせる活動を仕組むこともできる。

5	まとめ, Listening Plus 6 ・登場人物のせりふを気持ちをこめて朗読する ・コンサートの案内やそれに関する対話を聞いて、具体的な内容や大切な情報を聞き取る。	①コンサートの案内を聞く [理解] ②コンサートに関する対話を聞く [理解] ③対話を聞いてメモを取る [理解] ④Silent Night を聞いて歌う [表現・意欲]
6 検証授業 (2)	Speaking Plus 4 ・町中にある目的地への徒歩での行き方をたずねたり、教えたりすることができる。	①基本表現 [理解・表現] ②モデル対話の音読・ロールプレイ [表現] ③モデル対話の応用 [表現・意欲]
7	Multi Plus 3 ・町の様子を描写し、紹介する英文を理解し、自分の町の紹介文を書くことができる。	①紹介モデルの内容確認 [理解] ②町の描写の聞き取り [理解] ③自分の町の描写、紹介 [表現・意欲]

5 本時の活動

(1) 目標

- ① There is [are]...構文 (肯定文) の形・意味・用法を理解し、話すことができる。
- ② 本分の内容を理解することができる。

(2) 授業仮説

既習文型の英語表現を使って、新出のThere is [are]...を説明する例文を聞かせたり、書かせたりする活動を取り入れることで、その形・意味・用法を理解し話すことができるであろう。

(3) 評価規準

<理解の能力>

- ① 本文 (部屋の描写と対話) の内容が理解できる。
- ② There is [are]...を使った文を作成できる。

<表現の能力>

- ① 本文の音読やロールプレイができる。
- ② There is [are]...を使った文を発表できる。

(4) 展開

学習内容	生徒の活動	教師の活動・支援	仮説・留意点	小学校との関連
1 Greeting	T: Good morning, everyone. How are you today? S: I'm fine (happy / sleepy / tired / hungry ...). How are you? T: I'm ○○. What day is it today? S: It's Friday. T: What's the date today? S: It's December 22nd. T: How's the weather today? S: It's ○○. T: That's right.		作業仮説 1 英語学習を楽しめる雰囲気作りをする。全員が答えようと努力しているか。	小学校から利用している classroom English を利用することにより、楽しい英語学習への雰囲気作りにつなげる。
2 Warm-up	I think (that)を使った short speech を行う。 T: 3 or 4 students will say their speeches to the class. And other students will evaluate their speeches on their evaluation sheets.		作業仮説 2 発表者には自信を持って発表するよう、他の生徒は評価シートに必要事項を記入するよう声かけする。	speech manner ・ eye contact ・ smile ・ loud voice ・ gesture

<p>3 Introduction of "there is (are)"</p> <p>Activity ①</p> <p>Listening</p>	<p>There is (are).... の文をインプットする。</p> <p>T: What's this? S: <i>It's a Christmas tree.</i></p> <p>T: Yes, that's right. (黒板に貼りながら)</p> <p>There's a Christmas tree.</p> <p>(ろうそくや箱を見せながら, 同じ動作を繰り返す。)</p> <p>T: What's the meaning of "there is"? S: ...がある</p>	<p>作業仮説 1 新出文型なので, しっかり聞かせる。</p>	<p>手作りのクリスマスツリーやろうそくを見せることで, 生徒の視覚に訴える。</p>
	<p>ワークシートのクイズに挑戦する。</p> <p>T: Listen to me carefully and choose the correct answer.</p> <p>There is a window in this room.</p> <p>There is a picture on the wall.</p> <p>There are many presents under the tree.</p> <p>There is a star on the tree.</p> <p>T: Do you want to listen again? S: <i>Yes. / No.</i></p> <p>T: What is the answer? S: <i>OO.</i></p>	<p>作業仮説 2 ワークシート自分で答えを選ぶよう声かけする。</p>	<p>key sentence をたっぷり聞かせる。</p>
<p>Activity ②</p> <p>Writing</p>	<p>there is (are)... の文を作る。</p> <p>T: 黒板のクリスマスツリーを見ながら, there is (are) の文を作ってみましょう。</p> <p>[例] There is a Christmas tree on the blackboard.</p> <p>T: I'll give you some hints.</p> <p>(場所を表す言葉をいくつか確認する。)</p> <p>(5分後, 数名の生徒に発表させる。)</p>		<p>クリスマスに関連する言葉は, 小学校1年生から耳にしている。発音とスペルを併せて考える。</p>
<p>Understanding</p>	<p>本文の内容把握</p> <p>T: Listen to the CD and try No.3 on your worksheet.</p> <p>(①~⑧の答えを確認する)</p> <p>T: Try No.4 on your worksheet.</p> <p>(①~⑩の答えを確認する)</p>	<p>CD のモデル reading を聞く。 ワークシートから答えを考える。</p>	
<p>Reading</p>	<p>reading practice</p> <p>①Repeat after the CD ②Role play</p>	<p>CD の発音をまねて, 大きな声で練習するよう声かけする。</p>	
<p>4 Conclusion Song</p>	<p>T: Let's sing "I Just Called to Say I Love You"</p> <p>T: This is a song about a year. How many months do we have in a year?</p> <p>S: <i>Twelve.</i></p> <p>T: There are twelve months in a year.</p>	<p>作業仮説 1 大きな声で歌うよう声かけする。</p>	
<p>Homework</p> <p>Greeting</p>	<p>TBp.58 reading practice</p> <p>TBp.59 check the meaning of the new words</p> <p>T: That's all for today. Good-bye, everyone.</p> <p>S: <i>Goodbye.</i></p>		

(5) 評価

- ① There is [are] ...構文 (肯定文) の形・意味・用法を理解し, 表現することができたか。
- ② 本文の内容を理解することができたか。

検証授業(2)

ALTとのteam-teaching

Teaching Plan for Asking the Way

Date: January 19th, 2nd period

Class: 2-2(boys: 10, girls: 9)

JTE: Yukari Daimon

ALT: Matthew Anderson


1 Target of This Lesson : Asking and teaching how to go to the destinations

2 The Class Hypothesis :

The students may really feed the basics of communicative competence by using English.

3 Procedure of This Lesson :

Procedure and students' activity	JTE & ALT's roles and support	Remarks
1 Greeting * JTE & ALT greet to students and ask about the day, the date, and the weather.	* Good morning, everyone. How are you? (I'm fine, thank you. And you?) I'm fine, too, thank you. Today we have a class with Matthew sensei. <i>* Good morning, everyone. How are you? (I'm fine, thank you. And you?) I'm fine, too, thank you. What day is it today? (It's ...) What's the date today? (It's ...) How's the weather? (It's ...)</i>	(5 min) hypothesis 1
2 Warm-up * Singing a song "Top of the World"	* Now let's sing a song. Do you remember the title of the song? ("Top of the World") Who sings this song? (The Carpenters) (Teachers sing with students.)	(5 min) hypothesis 1
* Q & A with 2 groups	* Let's have Q & A time. Group 1, you're with Matthew sensei. The last student will have to ask him a question. Group 2, you're with me, and the last student will have to ask me a question. Do you understand? (Yes!) Let's start.	(5 min) hypothesis 2 & 3

<p>3 Main activity</p> <p>* Key words and phrases</p> <p>Students repeat after ALT and say the meanings of each word.</p>	<p>* Let's study new words, everybody, repeat after Matthew sensei.</p> <p><i>turn right - turn left</i></p> <p><i>traffic light</i></p> <p><i>corner</i></p> <p><i>way - way to - the way to</i></p> <p><i>me - tell me - could you tell me</i></p> <p><i>Could you tell me the way to ... ?</i></p>	<p>(5 min)</p> <p>hypothesis 3</p> <p>right light</p>
<p>* Demonstration by JTE and ALT</p> <p>Students listen to JTE & ALT's conversation and imagine where the post office is.</p>	<p>* Look at this map and we're here now. Matthew sensei wants to go to the post office. Listen to us carefully.</p> <p>* <i>Excuse me. Could you tell me the way to the post office?</i> Sure. Go down this street and turn right at the second traffic light. You'll see it on your left. <i>Thank you very much.</i> You're welcome.</p> <p><i>Where is the post office?</i> Do you want to listen one more time? (No.4) Yes.</p>	<p>(5 min)</p> <p>hypothesis 3</p>
<p>* Practice using Minachu as an example</p> <p>Students think about how to explain and try to give directions to Minachu.</p>	<p>* <i>If you're asked the way to Minachu, how do you explain? Let's try.</i> (Go down this street and turn left at the first traffic light. Turn right at the ...) <i>There is no traffic light. What should we do? We can use "corner".</i> (Turn left at the first corner. You'll see it on your left.) <i>Perfect.</i></p>	<p>(8 min)</p> <p>work-sheet</p> <p>first fast</p>
<p>* Group work</p> <p>Students divide into 4 groups and think about the way to the hospital / park / castle / their HR teacher's house.</p> 	<p>* Make 4 groups and try to explain the way. You can talk with the members of your group. (Teachers help each group.)</p> <p>(5 minutes later) <i>Everybody, stand up and ask the other groups' members for directions. But you can ask the same person only one time. If you don't know the answer, what do you have to say?</i> (I'm sorry, I don't know.) Of course you can ask Matthew sensei. He knows all the answers. Are you ready? Let's start. (5 minutes later) Go back to your seat. Let's check the answers. <i>Where is ... ?</i></p>	<p>(15 min)</p>

4 Conclusion & greeting * About homework	* Please look at the other side of the work-sheet. There is a map. Draw your house on the map anywhere you like. And tell me the way to your house.	(1 min)
* Greeting	* That's all for today. Goodbye. (Goodbye.) <i>Goodbye, everyone.</i> (Goodbye, Matthew sensei.)	(1 min)

4 Evaluation : The students could ask and teach how to go to the destinations.

VIII 研究の考察

1 作業仮説1の検証

小学校で聞き慣れた英語表現を整理分析し、それに基づく授業を展開することによって、英語を使うことへの興味・関心が高まるであろう。

(1) 手だて

① 挨拶

授業開始時の挨拶は、日付や曜日、天候などを尋ねることも含めて小学校から取り組んできていることなので、そのまま取り入れるが、一部の生徒のみが教師の質問に反応するのではなく、全員で反応し、英語学習を楽しめる雰囲気作りに努める。

また、終わりの挨拶では、その時間のまとめをすると同時に、教科書の読みや単語の意味調べなど、宿題に関する話もする。

② 新出文型の導入

There is [are]... 構文は、小学校の英語活動では取り上げられていないようだが、What's this? It's (小学校1年生の1学期から取り上げられている) を利用することにより、新出文型を導入する。

③ 歌

検証授業(1)では新出文型There is [are] ... 構文との関連で、「I Just Called to Say I Love You」を選んだ。

また、検証授業(2)で歌う「Top of the World」を導入するときには、「『英語の歌』で英語好きにするハヤ技30」(中嶋洋一著)を参考にして、歌詞をバラバラにしておき、

聞きながらその順序を正しくしていく、発音の難しいところだけを練習させるのではなく、その周辺を含めて練習させることなどを事前に取り入れる。

(2) 結果

検証前後のアンケート結果より

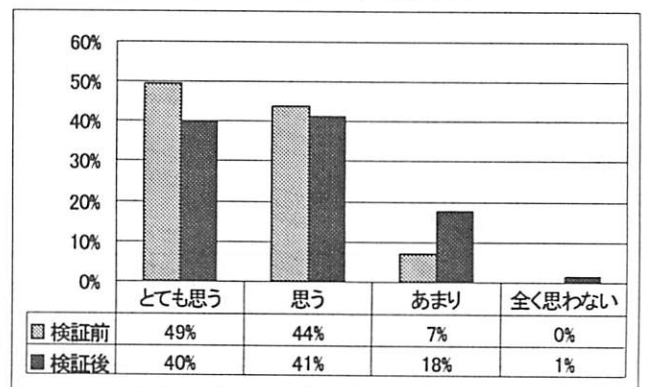


図1 もっと英語を話せるようになりたいですか

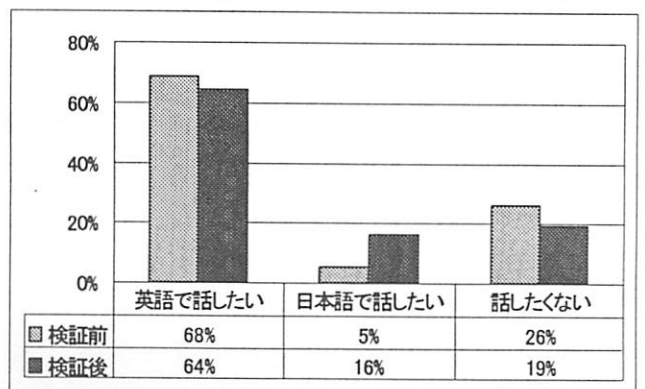


図2 外国の人がいたらどうしますか

「もっと英語を話せるようになりたいですか」という質問に対し、学習前は「(とても) そう思う」と答えた生徒が93%だったが、学習後は81%まで下がっている。(図1)

また、「外国の人がいたらどうしますか」という項目には、「英語で話してみたい」が

68%から64%に下がり、逆に「日本語で話したい」が5%から16%まで上がり、その分「話したくない」と答えた生徒も26%から19%まで下がっている。(図2)

(3) 考察

アンケートの結果は、数字的に見るとあまり良くはなかった。しかし、Warm-upのQ & Aで、単語ではなく文章で答えようとする生徒が増えてきている。また、授業以外の場面で、“Here you are.”や“Thank you.”などの簡単な表現を友人や教師に対して使っている(使おうとする)場面を目にするようになった。これは英語を使うことへの興味・関心が高まってきているからではないだろうか。これらの表現は、小学校の時から何度も何度も耳にしてきたものであり、口をついて出てくるまでになっているのであろう。それなら中学校で学習する英語表現も、何回も耳にし口にするすることで、定着するものと思われる。

2 作業仮説2の検証

英語を使いたくなるような教材の開発や、コミュニケーション活動を工夫することによって、積極的に英語を使うようになるであろう。

(1) 手だて

① Short Speech

既習の文型I think (that) ...を使ったShort Speechを取り入れる。中学生が興味を持っていると思われる話題を5つ提示し、その中から1つ選ばせ、さらにbecauseやifも使いながら、3文以上を英語で表現させる。

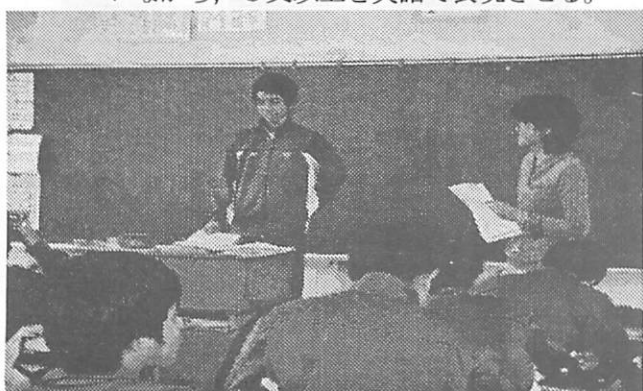


図3 Short Speechを行っている様子

また、発表者以外の生徒には評価カードを配布し、話している内容、コメント、評価などを記入するよう促す。

② クイズ、ゲーム

リスニング形式のクイズを取り入れる。生徒はクイズやゲームが大好きである。例えそれが英語であろうと、「クイズ、ゲーム」という言葉への反応は早い。小学校の英語活動では、クイズやゲームが活動の中心となっている。ここでは新出文型を使ったクイズなので、全ての生徒が答えられるよう、内容や話すスピードを吟味する。

(2) 結果

① Short Speech

生徒は始めは戸惑っていたようだが、教科書などを参考にスピーチを完成させていった。また、実際の発表の場面でも、指名されると前に出てスピーチを行うことができた。

しかし、スピーチをする際、声が小さかったり、聞き手を見て話すことができなかつたりなど、スピーチマナーができていなかった。

そこで、後日スピーチマナーの指導を行い、その後で行ったShort Speechでは、聞き手から話し手へ質問するなど、生徒同士で英語を使ってコミュニケーションできるようにもなり、英文も5文以上書ける生徒がほとんどであった。図4、5はその時に発表されたスピーチの原稿と評価シートである。

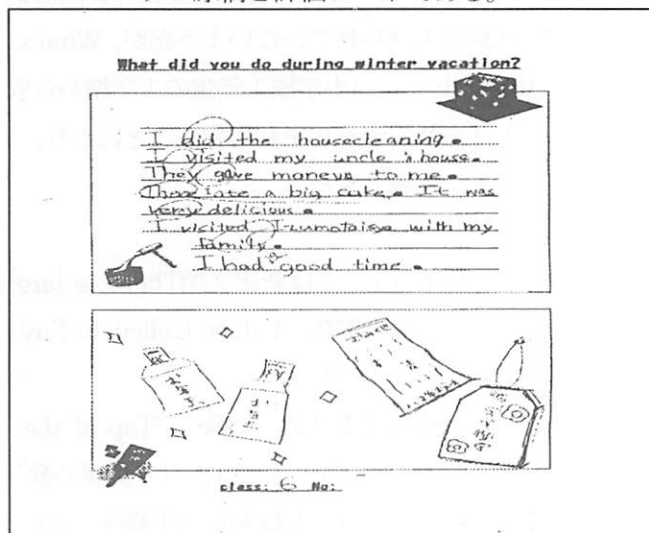


図4 冬休みに関するShort Speechの原稿

Listening Check Sheet (Winter Vacation)

class 6

No.	name	What is he/she talking about?	comment	evaluation (評価)
1	Yuki K.	A
2	Ayaka U.	S
3	Arisa S.	
4	Misaki A.	A
5	Shiori O.	A
6	Shiho H.	A
7	Risa S.	A
8	Ryuno S.	A
9	Rina J.	
10	Kotzaki U.	
11	Yusuke T.	A
12	Yoshihito H.	A
13	Ryunosuke A.	A
14	Takahiro T.	
15	Shun K.	
16	Takaki F.	S
17	Kairi E.	A
18	Kenta S.	A
19	Kenta T.	A
20	Sayuru S.	A

S	Excellent
A	Very Good
B	Good
C	So-so

Remark (備註) Write in English please.	
...	
...	

図5 評価シート

② クイズ、ゲームを取り入れた活動

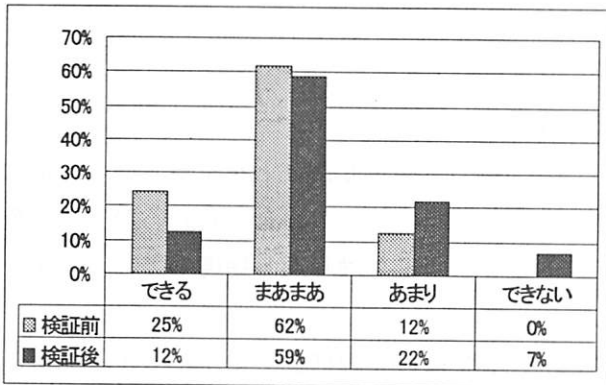


図6 歌やゲームに積極的に取り組んでいますか

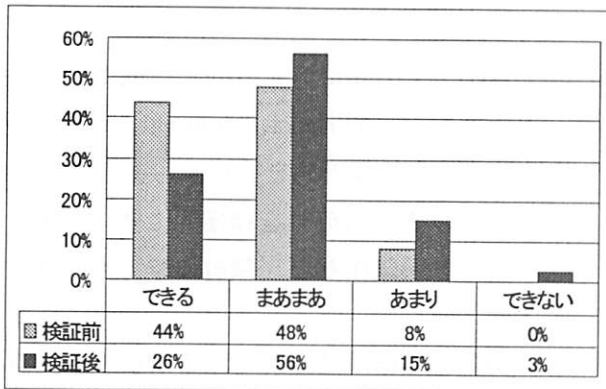


図7 歌やゲームを友達と楽しんでいますか

図6, 7を見ると、アンケートの結果は良くなく、歌やゲームを授業に取り入れた効果はまだ出ていない。しかし、休み時間

などに授業で取り扱った歌を歌っている生徒の姿も見られるようになってきている。また、ゲーム中に英語を使って質問したり答えたりする生徒が、大部分を占めるようになった。また、検証授業で導入したりリスニング形式のゲームにも、ほとんどの生徒がすぐに答えを見つけることができた。

(3) 考察

Short Speechを取り入れて1番感じたことは、生徒は十分な説明を聞き納得したことに対しては、多少難しいと思われるようなことでも前向きに取り組み、その達成感を味わっているようである。指導を継続していけば、積極性も身につけていくようになるのではないだろうか。またShort Speechに限らず、DialogやShow & Tellでも同様の効果が期待できると思われる。

3 作業仮説3の検証

ALT との授業の仕方を工夫し、実際に英語を使う場面を多く取り入れることによって、コミュニケーション能力の基礎を養うことができるであろう。

(1) 手だて

いつもはJTEと行っているGreetingやWarm-upでのQ & AをALT中心に進める。

また、新出語句の発音練習も工夫する(例えばCould you tell me the way to ...?をチャンクごとに読み、前に戻る)。さらに、Team-teachingだからできる2人の教師の英語でのやりとりをOral-introductionとして用い、英語をたっぷりと聞かせる。

(チャンク: 意味のあるひとかたまりのこと)

(2) 結果

図8を見ると、大きな声で英語をリピートする生徒の割合が減ってしまっている。しかし、図9では「教師やCDの英語が分かる」と答えた生徒が若干ではあるが増えている。

また、英語の勉強方法でテレビやラジオ、ビデオやDVDを見たり聞いたりする(したらいい)と解答した生徒も増えている。(図10)

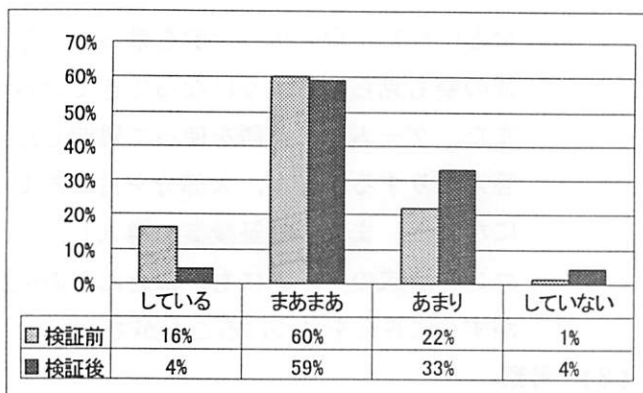


図8 大きな声で英語をリピートしていますか

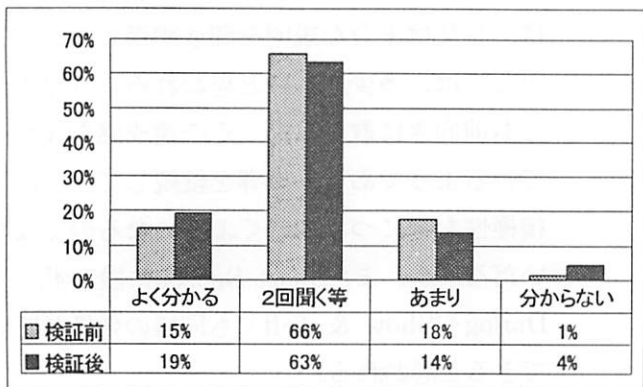


図9 教師やCDの英語が分かりますか

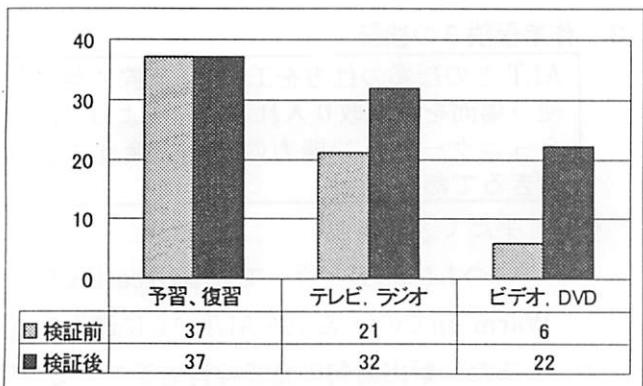


図10 英語の勉強方法

(3) 考察

ALTのクリアな発音で英語をたっぷり聞かせることによって、生徒は自然に英語を聞き取ることができるようになり、また、それを意識してか、授業以外でも英語を耳にすることの大切さに気づいたように思われる。

コミュニケーション能力の基礎を養うためには、やはり、聞くことと話すことに重点を置くことである。聞いたことを実際に使っていく(話していく)過程において、英語はコミュニケーションの手段であり、実際に使うことの大切さを生徒も感じることであろう。

Ⅹ 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 小学校の英語活動で取り扱われている英語表現を整理分析し、それをもとに中学2年生の単元別言語活動一覧表を作成することができた。
- (2) 小学校の英語活動を観ることで、生徒がどのようなことを体験してきたのかが分かり、指導案を作成する際、具体的な活動をイメージすることが容易になった。
- (3) 教材の開発やコミュニケーション活動を研究していく中で、多くの効果的な指導法を探し出すことができた。
- (4) ALTと話す場面を多く取り入れたことにより、間違いを恐れずに英語を口にする生徒が増えた。
- (5) 中学校における英語学習では、「書く、読む」ことも大切な言語活動であるが、そこに至るまでに十分な「聞く、話す」活動を取り入れることの重要性が分かった。

2 課題

- (1) 新しく学習したことを定着させるために、長い期間、同じことをいろいろな方法で飽きさせないよう繰り返し指導していく工夫を凝らす。
- (2) 小学校の英語活動を中学校でも有効に利用できるよう、9年間を見通した言語活動を考える。
- (3) ALTとのteam-teachingには時間的に限界があるので、JTE同士のteam-teachingなど、さまざまな授業形態を取り入れる。
- (4) 授業以外でも英語を積極的に使えるような学校の雰囲気作りと、職員の協力体制を組織する。
- (5) 英語を積極的に使おうとする態度を、評価ではどのような形で取り入れればよいかを考える。

おわりに

検証授業後のアンケートで、「英語の勉強は楽しいですか」という質問に、34%の生徒が「(あまり)楽しくない」と答えていました。英語で話をしたり歌を歌ったりすることの楽しさを、是非感じて欲しいと思いながら、この半年間研究をしてきました。その中で、いろいろな指導法や活動を見つけることができましたが、授業に効果的に生かすことができなかったのが残念です。ここで研究したことを、もう一度練り直して、再度現場でがんばっていきたいと思います。

6ヶ月間ご指導して下さいました比嘉信勝所長、

石川博基係長、比嘉清喜指導主事はじめ、研究所の職員の皆様に心から感謝申し上げます。また、浦添市教育委員会の諸先生方、上原周子指導主事、英語教育コーディネーターの宮城妙子先生、浦添中学校の谷内牧子先生、的確なアドバイスをしていただきありがとうございました。そして、いつも温かい励ましの言葉をかけて下さった港川中学校の東恩納吉一校長、職員の皆様に心よりお礼申し上げます。

最後に、半年間一緒に研究をしてきた35期研究員の先生方、本当にお世話になりました。みなさんと一緒だったから、ここまでやってくることができたと思います。

<主な参考・引用文献>

『中学校指導要領』		文部科学省
浦添市立教育研究所 『研究員の研究集録(平成17年度)』		
週刊教育資料No. 960	新里眞男	
『決定版! 授業で使える英語の歌20』	井上謙一他	開隆堂 2001年
『授業づくりのアイデア』	樋口忠彦・高橋一幸編	教育出版 2001年
『英語好きにする授業マネージメント30の技』	中嶋洋一	明治図書 2000年
『学習集団をエンパワーする30の技』	中嶋洋一	明治図書 2000年
『“英語の歌”で英語を好きにするハヤ技30』	中嶋洋一	明治図書 2000年
『中学校英語科のティーム・ティーチング』	景浦攻編	明治図書 1994年
『NEW HORIZON』指導書		東京書籍